

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 消費財段階での物価は落ち着いた状態 (06年2月生産者物価)

発表日: 06年3月21日(火)

~消費財物価コアは前月比+0.2%に鈍化~

(No. UI - 220)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

	生産者物価 (Producer Price Indexes)										<参考> 輸入物価	WTI
	最終財	コア		エネルギー	中間財		原材料	コア				
05/02	+0.5	(+4.7)	+0.1	(+2.6)	+1.9	+0.6	+0.5	0.7	2.1	+0.1	48.1	
05/03	+0.8	(+5.0)	+0.1	(+2.6)	+3.0	+0.9	+0.4	+4.7	0.5	+0.3	54.6	
05/04	+0.5	(+4.8)	+0.3	(+2.6)	+2.1	+0.7	+0.1	+2.7	+2.2	+0.4	53.0	
05/05	0.2	(+3.6)	+0.2	(+2.8)	1.6	0.3	0.3	3.1	2.9	0.2	50.0	
05/06	+0.1	(+3.7)	0.1	(+2.4)	+1.5	+0.2	0.1	1.7	3.6	0.2	56.4	
05/07	+0.8	(+4.7)	+0.3	(+2.8)	+3.9	+1.0	+0.1	+5.1	+0.6	0.2	58.9	
05/08	+0.5	(+5.3)	+0.0	(+2.6)	+3.0	+0.5	0.1	+3.5	+4.6	+0.1	65.0	
05/09	+1.4	(+6.9)	+0.2	(+2.6)	+5.4	+2.3	+1.0	+10.5	+5.6	+0.9	65.5	
05/10	+0.8	(+5.9)	0.3	(+1.8)	+4.3	+3.0	+1.4	+5.7	1.5	+1.0	62.3	
05/11	0.4	(+4.4)	+0.2	(+1.7)	2.6	1.4	+0.3	1.7	+3.5	0.1	58.2	
05/12	+0.6	(+5.4)	+0.1	(+1.7)	+2.0	+0.1	+0.3	2.3	+0.5	+0.0	59.4	
06/01	+0.3	(+5.7)	+0.4	(+1.5)	+0.0	+1.2	+1.0	0.5	0.1	+0.3	65.3	
06/02	1.4	(+3.7)	+0.3	(+1.7)	4.7	0.3	+0.5	9.2	+3.3	0.5	61.7	

(出所) 労働省 (Department of Labor)
(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

コアが前月比 1.4%と下落幅は市 場予想を上回った

06年2月の生産者物価(最終財)は、エネルギー・食品価格の下落によって前月比1.4%と下落幅は市場予想の同0.2%を大幅に上回った。変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、タバコ、定期刊行物が上昇したことから同+0.3%と市場予想の同+0.1%を上回った。ただし、ともに一時的な上昇要因のため、持続的に物価を押し上げる可能性は低い。

また、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でみると、中間財(コア)が+7.4%(1月同+8.6%)と高い伸びが続き、遅れて影響を受ける最終財(コア)は同+2.0%(同+1.0%)と上昇ペースが速まったが、低い伸びにとどまっている。このように、生産者段階では川上の物価上昇圧力が強まっているものの、競争圧力の激化や生産性の向上等によって川下への波及は限定的なものにとどまっている。

資本財、消費財コ アともに伸びが鈍 化

最終財のカテゴリー別の動向をみると、食品関連では野菜、卵、ビーフ、ポーク等の下落によって、食品価格は前月比2.7%(1月同+0.2%)と減少に転じた。エネルギーは前月比4.7%(1月同+0.0%)と下落した。家庭用電力が同+0.0%(同+3.0%)と鈍化し、天然ガスが同4.1%(同+0.8%)と下落に転じ、ヒーティングオイルが同1.1%(同1.0%)、ガソリンが同11.0%(同3.5%)と下落幅を拡大した。

消費財(エネルギー・食料品を除く)は前月比+0.2%(同+0.4%)とプラス幅が縮小した。消費財(エネルギー・食料品を除く)では、タバコが上昇に転じ、定期刊行物の上昇ペースが加速したものの、乗用車価格が同0.8%(1月同+1.1%)、スポーツ用品が下落した。他方、資本財は前月比+0.1%(同+0.3%)と減速した。資本財の資本財では、船舶、鉄道設備、需要の好調な鉱業機械、金属加工機器の上昇ペースが加速した一方、コ

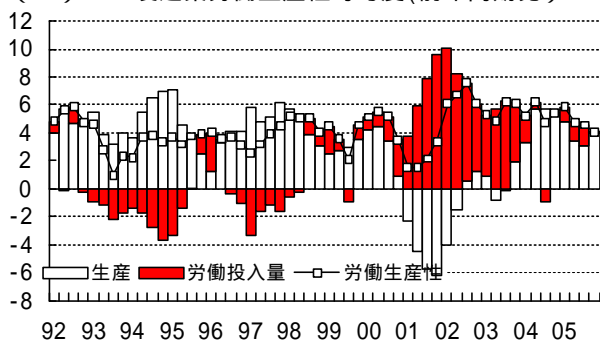
ンピューターの下落幅が拡大した。

生産者物価(最終財)コアは前月比で緩やかな上昇にとどまる公算

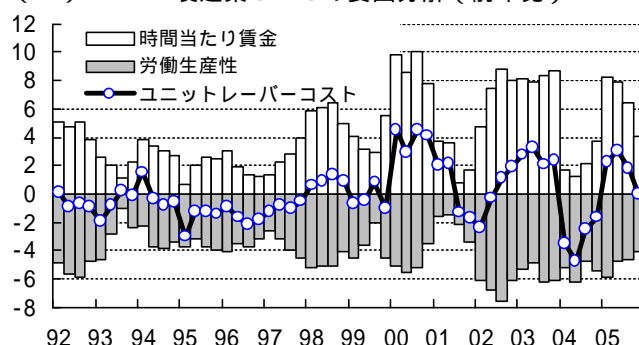
今後に関しては、川上でのインフレ圧力を示す原材料(コア)が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で2月に+13.8%(1月+19.5%)とプラス幅が縮小したこと、中間財(コア)に2ヵ月程度先行する仕入価格指数(ISM製造業景気指数)が低下していることから川上からのインフレ圧力は目先弱まると見込まれる。しかし、世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念を背景に商品価格、エネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続く可能性がある。このため、原材料価格(コア)、中間財コアでは上昇圧力が強まり、インフレ圧力は再び強まると見込まれる。

その場合でも、製造業では売上の増加による数量効果、情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価(最終財)コアは前期比で緩やかな上昇にとどまろう。

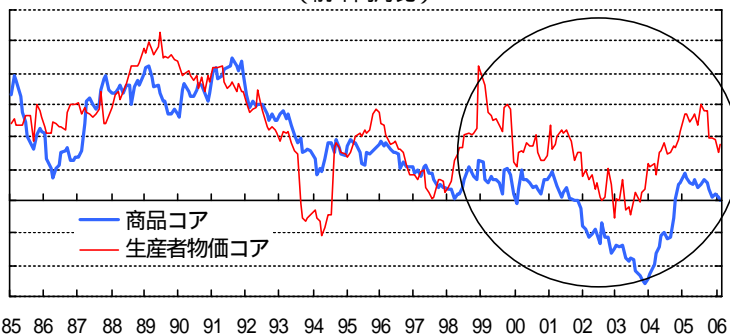
(%) 製造業労働生産性寄与度(前年同期比)



(%) 製造業U L Cの要因分解(前年比)

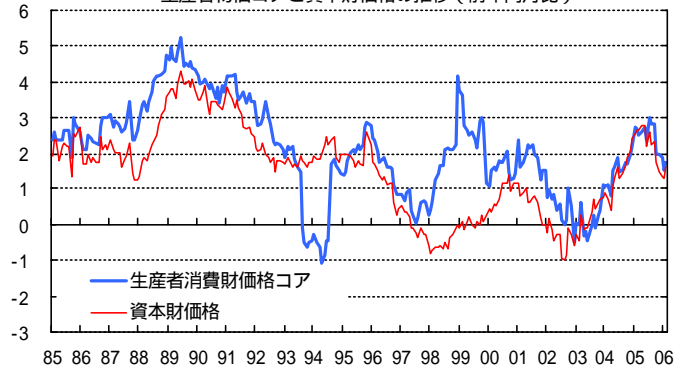


(%) 生産者消費財物価コアと消費者物価商品コア(前年同月比)

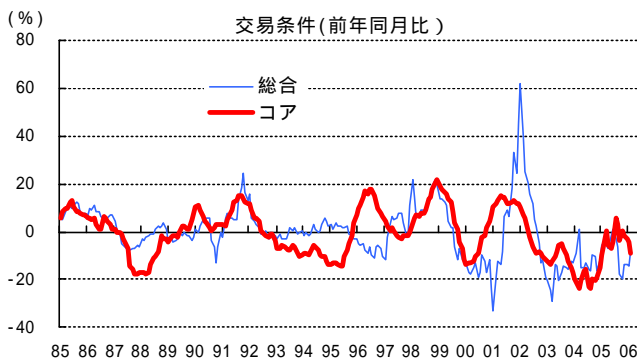
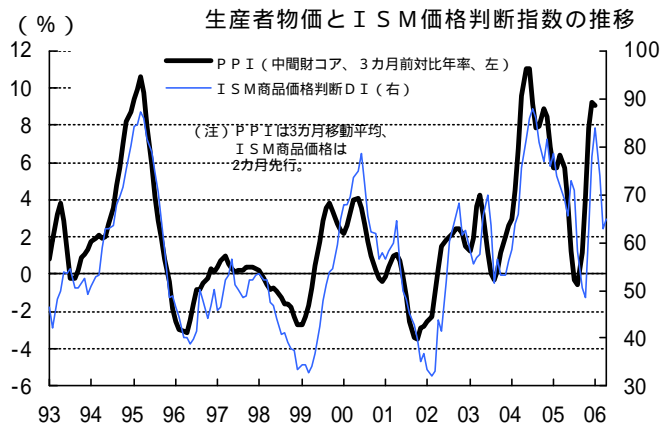
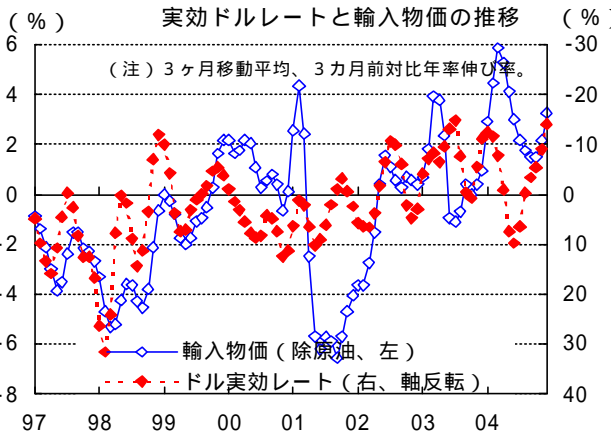
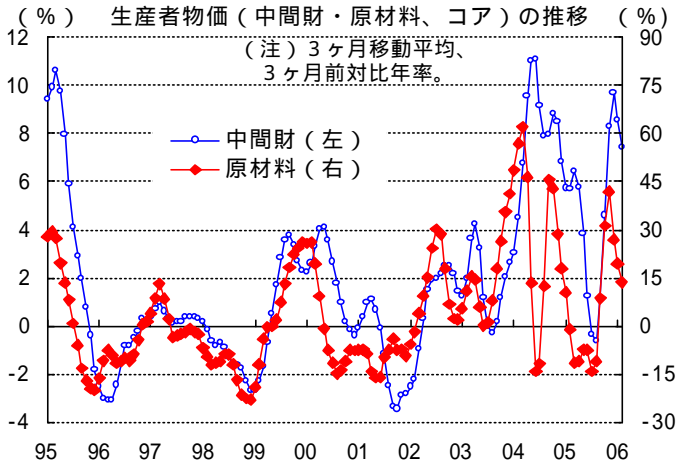
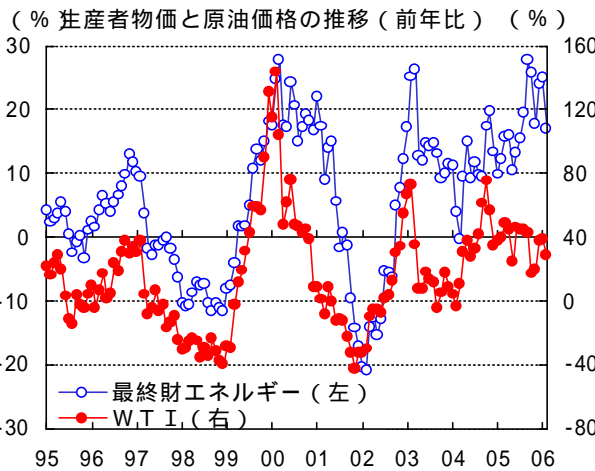
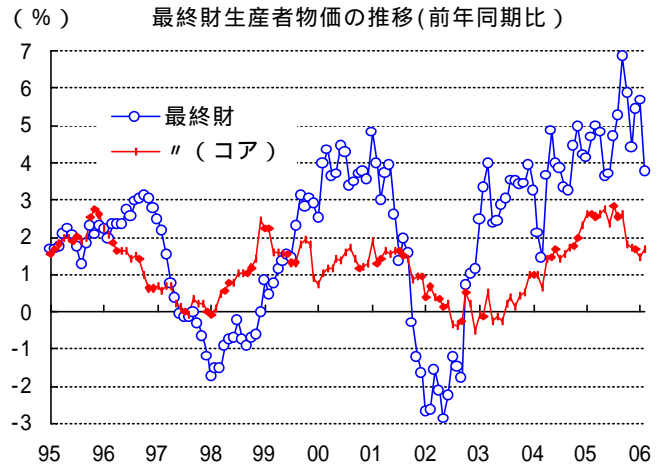
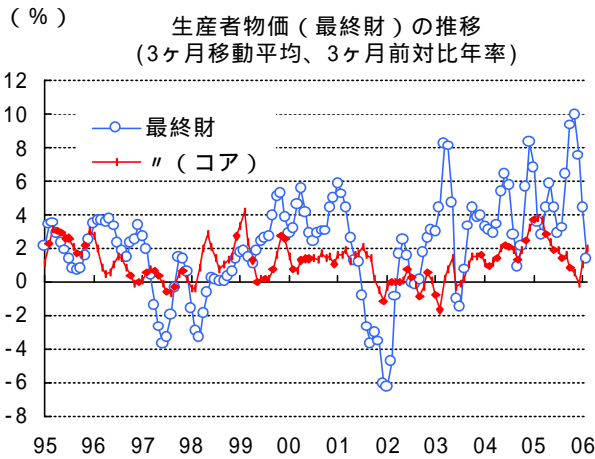


出所)米労働省

(%) 生産者物価コアと資本財価格の推移(前年同月比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。